「探究的な学び」を支える東高図書館

―信頼性の高い情報を入手し，卒業後も学び続けるために―

鳥取県立鳥取東高等学校　三好　明美

＜抄　録＞

鳥取東高校の図書館活用の中でも，全学年が行う総合的な探究の時間を取り上げる。正確で確実な情報収集や情報リテラシー，新聞記事検索データベースの活用等，紙資料とICT活用を両立させた，図書館オリエンテーションやガイダンスに関しての取り組みを紹介する。

＜キーワード＞

学校図書館，総合的な探究の時間（総探），新聞記事，検索データベース，情報カード，鳥取学，SDGs，小論文

1　はじめに

鳥取県立鳥取東高等学校は，生徒数841名，教職員数80名で，普通科と理数科を設置し，生徒の大多数が大学進学を目指している。

図書館の蔵書数は約37,000冊，職員は総務部図書係に所属し，専任学校司書１名と国語科教諭兼司書教諭，合計２名で運営にあたっている。

図書館の活動は多岐にわたっているが，本稿では授業支援の中でも特に「総合的な探究の時間」（以下「総探」）に特化して述べたい。

本校で「総探」と図書館の連携が組織的に開始されたのは2020年度からである。理数探究部が主となり，総務部図書係と連携を取りながら年間39時間の活動を行っている。それ以前は単発的な図書館活用が行われていたが，「総探」の開始に伴い，学年ごとに図書館を活用した授業活動の計画を体系的・組織的に立案した。探究的な活動の資料として，新聞資料や時事問題は欠かせない。そのため2017年度に新聞記事データベース「朝日けんさくくん」を試行し，教職員の支持のもと2018年度より本格的に導入することとなった。

2　学年ごとの総合的な探究の時間

「総探」の主な流れは次のようなものである。

（1）１年生の取組み「鳥取学」

１年生で探究の手法を学び「基礎力」を培う。

４月：学校司書と司書教諭で各クラス１時間の図書館オリエンテーションを行い，図書館の意義，使用方法全般について学ぶ。

６月：各クラスの副担任を中心に簡単な探究活動のサイクル「ミニ探究」を体験する。「課題設定→仮説の立て方→情報収集→検証→結論」に至る探究の一連の流れを経験することで，目的に応じた信憑性の高い資料を収集し，情報カードを活用して情報の蓄積を行い，出典を明らかにすることなど，基本的なことを学ぶ。ここでは理数探究部とともに司書教諭・学校司書も授業計画から参画している。

７月：「ミニ探究」の応用編として「鳥取学」（地域課題解決型探究学習）を開始する。年度により多少異なるが，７つの分野，①地域創生②地域活性③産業Ａ（農林水産）④産業Ｂ（工業・製造業）⑤医療/看護⑥コミュニティ作り⑦教育/文化，から，希望する分野を選び，クラスで４～５人のグループを作り，グループごとに企業等から与えられた各分野に関連する課題に取り組む。全クラスが一斉に活動するので，教室に適切な資料を運んだり，Chromebookからデータベースを検索したりして課題解決に向けて情報収集する。その際，紙資料の活用を重視するとともに，正確な情報源である新聞記事検索データベースも利用している。

12月：活動の成果発表として，分野ごとに分かれて企業等に出向きプレゼンテーションを行う。その場で企業等から直接指導していただき，再度吟味する。

１月～２月：指摘を反映した内容を校内で発表する。

（2）２年生の取組み「SDGs」と「研修旅行」

２年生では探究活動の活用を広げ，自ら課題を見つけ自身で問いを作り探究をするための活動を行う。

４月～７月まで：「SDGs」を通して時事問題に関する

MIYOSHI, Akemi：鳥取県立鳥取東高等学校　司書教諭（鳥取県鳥取市立川町５丁目 210）

課題を考え，クラス４～５人を１班として活動。図書館が探究活動に適したガイダンスを行う。１年次で学習した検索の仕方や各種ワークシートの使い方も復習する。その後，信頼性の高い最新の情報を収集するために新聞記事検索データベースなどを活用したり，図書資料を使ったりしてプレゼンテーション動画を作成し，出来上がったものをクラスごとに発表する。発表終了後は鳥取県内で活躍する企業の方々を招き講演会を開催している。

８月以降：直近の２年間はコロナ禍のため実施できなかったが，研修旅行で訪れる予定の「北海道」に関する探究学習を行う予定である。コロナ禍以前は，行動班ごとにテーマを設定して，事前に目的地の歴史・文化・経済等を調べＡ４サイズで数枚のポスターにした。図書館で展示したところ他学年からも好評であった。

（３）３年生の取組み「小論文」

３年生は，「総探」の内容を，自分の進路に結び付いた実践に移し「進路を切り拓く」ことを目標に掲げている。「総探」を通じ自らの課題を発見し，必要な情報を収集・分析し，主体的・協働的な課題解決に向かう力を身に付けるため，各自が小論文を書く。図書館の主な役割は参考文献等に関して，学校司書が中心となり「朝日けんさくくん」をはじめとする新聞記事検索等のレファレンス（＝資料相談）を受けている。時事問題に関して，キーワードをもとに検索できる新聞記事検索データベースが最もよく使われている。

3　情報収集のために図書館ができること

図書館資料の充実をはかるため，「朝日けんさくくん」ほか新聞記事データベース（全国紙１・地方紙１）の導入をしている。データベース印刷用のプリンターを設置したことで利用頻度がさらに伸びた。また，地方紙と全国紙の読み比べをしたり，データベースと実際の紙面を比べたりすることで複数情報から資料を読み取ることができるよう，汎用的な資料を準備することを心掛けている。

そして，肝要なのは情報の探し方である。正規職員の学校司書が常勤しているので，資料収集やレファレンスを一手に引き受けている。本校ではデータベースにアクセスしやすいよう，学校司書がQRコードを作成しているため，簡単に検索サイトを開くことができ，館内もテーマ別コーナを設けるなど使いやすい工夫をしている。

4　おわりに

本校では，毎年，教員・司書教諭・学校司書がそれぞれの立場から意見を出し合い，各学年に応じた図書館ガイダンスを系統的にすすめ，情報収集のノウハウに関したガイダンスをクラスごとに行っている。司書教諭は他教科と兼務なので主に授業の進め方等に関して相談にのることや指導案等の作成をする。実際の授業では授業者と学校司書がチーム・ティーチングを行い，目次や索引の見方，紙資料やインターネット情報の違い，各種データベース検索の仕方について教え，情報カードに記入する方法等を丁寧に指導している。基礎的なガイダンスをすることで，生徒も教員も資料の探し方が向上している。

今回は「総探」について述べたが，ほかにも日常的に図書館を利活用する機会が増えてきている。授業以外でも「困ったときは図書館へ」をモットーにいつでも確かな情報が得られるように機能していきたい。データベースと共に紙資料も活用できる指導を重ね，STEAM教育を具体化していく場となるよう，今後もさまざまなアプローチを重ねていきたいと考えている。